

あいクラブ通信

Vol.20
Winter

オープニング見学会には、たくさんの皆様にご来館いただきまして、誠にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。
去る12月24日に社員全員で、感謝をこめて厳正に抽選会を行いました。



早田星光庵 オープニング記念景品 プレゼント抽選発表 (既存会員様および新規入会会員様)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. ダイソン V8 (コードレスクリーナー) | 城西地区 / 熊崎様 |
| 2. プライベート・ピエラ (ポータブルテレビ) | 金華地区 / 林様 |
| 3. グリーンファーム (水耕栽培器) | 長良西地区 / 大竹様 |
| 4. コットン (ハンディウオッシャー) | 三里地区 / 森様・京町地区 / 川田様 |
| 5. ラクーン (衣類エアウオッシャー) | 木之本地区 / 櫻橋様 |

以上のように、ご報告いたします。おめでとうございます。

日光庵
〒502-0933
岐阜市日光町9丁目21番地
(固定電話なし)
*駐車場 / 式場西隣 19台有

早田星光庵
〒502-0847
岐阜市早田栄町5丁目22番地

本荘月光庵
〒500-8323
岐阜市鹿島町3丁目1番地

西岐阜駅
JR岐阜駅
名鉄岐阜駅
名鉄名古屋本線

【タクシー】JR岐阜駅・名鉄岐阜駅より、距離2km、所要時間約5分です。
【バス】JR岐阜駅前7番のりば(G鏡島ルート)乗車、
「本荘」バス停下車東へ徒歩1分です。

編集事務局
岐阜県岐阜市本町3丁目18番地
0120-00-4243
<http://www.ichikawa-souten.jp>
☆【岐阜市家族葬】で検索!

スタッフ・素顔のコーナー

◆ 12月23日、無事に早田星光庵がオープンいたしました。23日の見学会も、200名近くのお客様にご来場いただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。オープン後は、通りすがりの方がポスターをご覧になっていたり、駐車場にいと話しかけて下さったりと地域の皆様が早田星光庵に関心を持ってくださる事が何よりも励みになっております。ここからスタート。2017年も日光庵、本荘月光庵、新たにオープンした早田星光庵を宜しくお願い致します。 井山奈津子

◆ 深夜の電話の音に、緊張しながら受話器を取ります。夜間の電話対応をさせて頂いていると、この時間に鳴る電話の向こうに大切な方を亡くされ悲しむ間もなく、葬儀社に電話をかけるご家族の姿が浮かびます。そんなご家族の気持ちを思うと「一刻も早くお迎えにあがりたい!」「早くご家族の元にかえしてあげたい!」と思います。私は市川の中でそんなご家族と一番最初にお話をさせて頂く事が多いので、最初の電話で少しでもご家族の不安を安心にかえていただく第一歩となるように責任を感じながらいつも受話器をとるように心掛けていきたいです。 笠原せつ子

◆ 4年ぶりに歯医者へ行ったところ虫歯が3か所見つかり、歯茎の炎症や歯石もありました。歯の掃除をもらったことで炎症が治まっていくのを目の当たりにし、丁寧な歯磨きをしていても汚れは落とし切れていないことや、定期的なメンテナンスは必要なのだ実感しました。そう感じながらも、半年に1回診せにおいでと先生に言われた瞬間、「1年に1回じゃダメですか?」と心の中でつぶやきました。小川広子

「やわらぎの家族葬」貸切型セレモニーハウス
FUNEAM
有限会社 ファーイースト

心にのこるご葬儀を……
株式会社 市川葬典
〒500-8034 岐阜市本町3丁目18番地
TEL 058-262-0042 FAX 058-265-3644



写真:「日光庵」京都 借りの窓・遊いの窓 撮影:市川雅清 DATE カメラ:オリンパス STYLUS TG-4 ホワイトバランス: AUTO シャッタースピード:1/250 F2.7 ISO感度:100 補正:-1.0

多方面から注目される「アドラー心理学」が凄い (その1) 人生を変える逆転の発想とは…

皇紀2677年 平成29年 新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしくお願い致します。

アルフレッド・アドラー(1870~1937)は、オーストラリア生まれの心理学者・精神科医です。日本においてはごく最近まで、その名をほとんど知られていませんでしたが、欧米ではフロイトやユングと並ぶ「心理学の三大巨頭」の一人として高く評価されてきました。

アドラー心理学の特徴としてあげられるのは、人は誰もが同じ世界に生きているのではなく、自分が「意味づけ」した世界に生きていると考えることです。同じ経験をして、意味づけ次第で世界はまったく違ったものに見え、行動も違ってきます。アドラーはこのことを説明するために、子ども時代に不幸な経験をした人を例にあげています。「不幸な経験」をどう意味づけるかによって、その後の生き方や行動が大きく変わります。

今の自分が生きづらいのは「幼い頃に親の愛が足りなかったからだ」とか、「親から虐待を受けたからだ」と、過去に親から受けた教育を原因だと考える人は少なくありません。タイムマシンで過去に遡り、過去をかえられるのであれば、今の問題は解決できないことになってしまいます。

過去は変えられなくても、未来は変えることができます。過去の経験は「決定因」ではないのです。人の行為は、原因によってすべてを説明しつくされるわけではなく、自由意志は必ず原因をすり抜けていきます。何かによって自分の今の生き方や行動が決定されていると見たい人は、そのように見ることによって自分の責任を曖昧にしたいのです。

いかなる経験も、それ自体では成功の原因でも失敗の原因でもありません。過去の経験が私たちの何かを決定しているのではなく、私たちが過去の経験に「どのような意味を与えるか」によって自らの生を決定しているとアドラーは考えます。「意味づけ」を変えれば未来は変えられます…

株式会社 市川葬典 代表取締役会長 市川雅清

自分の人生を自分らしく、美しく完成させるための…終活「生前準備」講座 市川雅清

教養講座 第3章

人生を変えるヒント

(6)「輪廻と転生」の概念その1

天国、神、生まれ変わり、ホワイトライトなど、なんであれ、見えないものを信じる人は、来世があるという意識、人間は「からだ」以上のものであるという意識、始まりがあり、半ばがあり、終わりがある。この人生だけではないという意識によって大いに慰められています。

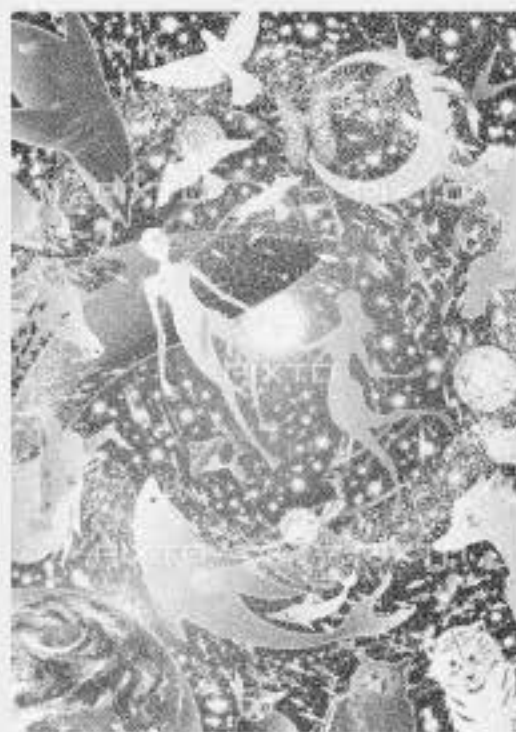
死の経験は、誕生の経験によく似ていると言えます。それは毛虫が成長して自然に蝶に生まれ変わるようなもので、その蝶は目には見えません。「肉体は生きている間にまとっている衣のようなものだ。」と考える文化はいくらでもあります。人間は太古からその問題を探求してきました。死の直前、時には何時間前でさえ、あの人のからだは呼吸していないように見え、あの人はもはや、からだの中にはいないのではないかと感じていた。「あの人はもうここにはいません。そんな気がします。」医療現場では、臨終を告げられた患者の家族からそんな言葉を聞くことがあるそうです。

その人は今でも存在している。誕生が始まりなのではなく、死が終わりなのでもない。誕生と死は連続体の上にある任意の一点にすぎません。

死は、一般的に考えられているように「すべて終わり。」を意味するものとして存在しているわけではありません。

現代社会では、「死んだらそれでおしまい。」だと信じている人がたくさんいます。しかし、亡くなった人のエネルギーは、故人の周囲の人たちの中だけで生き続ける。もしそうだとすればなおさら、亡き人は我々の心の中で、我々が考えるよりもはるかに具体的なかたちで生きているのではないかと？それが、トランスパーソナル心理学（第四の勢力）で打ち立てられたもので、「人間は、物質としての自分を越えた存在であり自己超越というものを中心とした心理学を作らないと全体が見えてこない。」という流れです。

人生における経験は、それが因果応報的な体験ではなく、教訓的・学習的な体験です。自分がこの人生を経験していかに成長してきたか、そしてさらに成長し続けていくのか。自分は過去の営みの一部であり、また未来を構成するものの一環でもあります。このようなエネルギーの流れの中で、何かに包まれていて、あなたが人間世界をどれだけ愛し、そこでいかに奉仕してきたかが問われているのです。



輪廻転生を科学や物理学で証明することはできませんが、哲学や臨床心理学の立場から検証すると、単純な引越しのようなもの、ものの転がりや循環ではなく、心の変化の過程ではないのでしょうか？

次回、第21号の予告 第3章 教養講座

(7)「輪廻と転生」その2、宗教ではどのように説明しているのでしょうか？
わかりやすく解説します。お楽しみに…



●自己紹介 (いちかわまさきよ)
1955年生・B型・おうし座
一級葬祭ディレクター
技能審査協会審査官
ライブ終活アドバイザー
趣味/写真・登山・心学研究
座右の銘/単純、明快、矛盾なし



「町の葬儀屋さん」.com

葬儀後の笑顔

葬儀の流れのひとつに納棺があります。自宅でもホールで行う時でも、参加できる遺族・親族に1人でも多く集まっていただき、その場にいる皆で納棺を進めていきます。故人を囲み、顔を見つめ手を握り、伝えたいことがあれば声をかけてもらう。十分に時間をとったあと、故人の重みを感じていただきながら棺へと納め、副葬品を入れます。

静かに流れる時間の中で、一人ひとりが故人と向き合っていることを思い起こすと、悲しみがこみ上げてくることと思います。でもその感情を抑え込まずに、表に出して欲しいと私は思います。泣くことが恥ずかしいなんて思いません。今一度この場で故人の死を受け止めることが、遺族へのグリーフケアに繋がると思うからです。ですが、それは葬儀を行うからこそできるのであって、葬儀を行わないとなると、そういった場を作ることが難しくなります。

以前、亡くなられた献体登録者の方をお迎えに行った際、どういった事情からなのかわかりませんが、葬儀は行わないということで、納棺もなければお寺様のお勤めも一切なく、ただご遺体を岐阜大学病院へお送りするのみでした。ご遺族はまだ深い悲しみの中にあり、名残惜しいといった表情をしていらしたので少し時間を取りましたが、これだけでは何も癒えないような気がしました。故人を搬送車に乗せ出発したとき、本当にこれでいいのかなと、寂然としめない気分になりました。

葬儀に対する考え方は人それぞれですが、葬儀はして当たり前と考える人がまだ多いだろうし、葬儀をしなかったことで心の切り替えがうまくできず、後悔している人もいと聞いたことがあります。だから葬儀ができるのであれば、やっておくべきだと思います。それに、葬儀をしないと決めたところで、親族の人たちから批判の声が出るのではないのでしょうか。故人の遺志であるとか、よほど自分の意志が強いとか、事前によく話し合いができていないと難しいことだと思います。葬儀をするのもしないのも自由ですが、気持ちの整理をつけられる場を持つことは大事なことです。

そんな場の提供として、弊社の家族葬ホールをお勧めいたします。式場が畳になっているので故人との距離が近く感じられ、自宅葬のような感覚です。一度利用されたお客様の中には、煮物や炊き込みご飯を用意してみんなに振舞っていて、自宅葬の名残をそのままホールで再現しているようでした。温かみのある造りになっているので、どのお客様もゆったりと過ごされ、久しぶりに会った親戚の人と会話が弾んだりして、思い思いにご利用いただいています。

葬儀を終えてふっと安堵の笑顔が見られると、いい葬儀ができたんだと感じます。
小川 広子



Column

小正月と冠婚葬祭

皆様新年明けましておめでとうございます。本年もこの「社長コラム」のコーナーよろしくお願ひいたします。さて、「冠婚葬祭」という言葉は人生儀礼を表す言葉ですが、「婚」は「結婚」、「葬」は「葬儀」、「祭」は「お祭り」を指しています。そして、「冠」は「成人式」を指します。成人式と言えは今は一月の第二月曜ですが、数年前までは一月十五日でした。実は、この一月十五日という日付には意味がありました。元日を中心とした正月（大正月）に対して、一月十五日のことを小正月といっています。旧暦では月の満ち欠け（約二十九、五日周期）が一月の基準となっていたので、新月から新月までの期間が一月とされてきました。新月には見えませんが、三日目になると鏡とかがた月になり、これを「三日月」といいます。そして十五日目に「満月」を向かえるわけです。「満月」の事を「十五夜」と言うのはこの名残です。新年初めての満月の日が一月十五日に当りこれを祝って小正月と呼ぶようになったとされています。奈良時代には「加冠の儀」と言い元服（大人の仲間入り）する人に冠をかぶせる儀式が行われていました。冠を付けると言う事は、「一人の大人として認められる」と言う事を意味します。この「加冠の儀」の名残が「冠婚葬祭」の「冠」なのです。昔の成人式は厳粛な雰囲気で行われたようですが、今の成人式を見てみると「成人式会場大荒れ」とか「モラルなき成人式」などと言われる、新成人に冠を与えるどころか主催者側が「オカシムリ」と言った状況です。新成人の皆様には自覚をもって大人の仲間入りをして欲しいものです。

株式会社市川葬典 取締役社長 坂上一己

●社長自己紹介 (さかがみかずみ)
1965年生・A型・てんびん座
一級葬祭ディレクター 貨物事業運行管理者



趣味/寺仏鑑巡り。松山千春さんの歌を聴きながらのドライブすること。
座右の銘/男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく。
大切にしている物/時間・規律・秩序